

山の思い出

ポリテクカレッジ浜松の桑田さんから紹介され、こうして書き始めました。桑田さんとは同じ東海ブロックでもお互い遠いですが、やはり去年アフリカのウガンダへ仕事で同行でもしない限り、こんな関係にもなってなかったと思います。



さて、山の話でもすることにします。といってもここ10年ぐらいは高い山には登っていませんが…。最近、私の勤務先である東海能開大では若い人が増え、よく山に誘われるのですが、予定が合わないこともあり、つい引っ込んでしまう今日この頃。年に何度も登っていた当時のことを思い出すと、なぜか霧の山頂や寒さで手足が凍えた経験ばかり…。なんか苦しいことほど美しい思い出になっているようで。といっても、やはり初夏の穂高の爽快さ、秋の紅葉、雪山等々、こんな景色が日本にあるとは、というような思い出も多いのです。以下、私の体験ベスト3です。

①まずは夏の穂高。馬の背、ロバの耳やらジャンダルム。西穂から槍ヶ岳まで縦走した日は晴天の絶景で、ああ生きていて良かったと思えるコースでした。

②次に秋の涸沢（からさわ）。これは登山というよりハイキングですね。シーズンの土日になると、上高地から紅葉の名所涸沢への約12kmの道のりが人の数珠繋ぎ。繁華街並みですね。でも、涸沢の紅葉は、日本でないような赤と黄と茶色の幻想的な世界。一生に一度は見ておかなばなりません。

③次は甲斐駒の冬山体験。どうしても行きたかった冬山。割合穏やかな南アルプス甲斐駒ヶ岳を選びました。といっても冬の山。出発前1ヵ月ぐらいは毎晩照れながら名古屋の街を走りこみ、出発前日は部屋の整理までして、出発日は（奇しくも元旦でしたが）"よし"と心に叫んで出かけたものです。登山口で入山届けをすませると、



涸沢の紅葉と穂高の山々…カラーでないのが残念



甲斐駒ヶ岳への登山中、仙丈岳を望む

あれあれ多くの人。何かの団体やら冬山入門コースのパーティーやら。雪を掻いて進むラッセルの必要はなくなり、冒険心にちょっと欠けたというか、ほっとしたというか…。頂上や峠は強風で雪はあまりないのですが、冬山の絶景はいうまでもありません。



今回は、埼玉ポリテクセンターの大石さんです。もう7年ほど前になりますが、ポリテクカレッジ岐阜と一緒に在籍した頃は、行動パターンというか思考パターンが私とよく似ているらしく、よく偶然お店でばったりと会ったものです。それでは大石さん、よろしく。